

北海道の三笠市立博物館を訪れた時の様子。新井さんの前には、特大のアンモナイトの化石が展示されています。



り、黄鉄鉱や砂金を目当てに沢に入り、砂と鉱物をと選り分けるパンニングも行います」と新井さん。「産地近くの博物館や資料館で産地について学んでおくのも巡検の醍醐味です。巡検の前に学ぶことで、いつの時代のものなのか、どんな化石や鉱物が採れるのかを知ることで、採集した化石や鉱物を同定しやすくなります」。

連日採れた大きな黄鉄鉱。



大きなアンモナイトを発見！ 世田谷祭では子どもも大人も大喜び

同好会のメンバーは巡検を重ねながら、知識と観察眼、体力を鍛えて、毎年心待ちにしている2大イベントに備えています。まず一つが、5月のゴールデンウィークに行う北海道巡検です。井上さんによると、「北海道には約1億2000万年～6800万年前の白亜紀の海に堆積した「蝦夷層群」が分布しています。南は浦河町付近から北は稚内市と北海道の中央を貫くように地層が続いています。アンモナイトや恐竜、首長竜などの化石の産出が豊富で、日本を代表する地層の一つです。この巡検は山に入り採集するため、安全面を考慮し、経験を積み、装備を整えられる2年生以上に参加を限っています。同好会として一番気合が入る巡検ですね」。メンバーは遠征費を自ら貯め、巡検地では「何としても成果を出したい」と、目を皿のようにして石を観察し、ひたすらハンマーを振り続けま



北海道巡検で採集した大きなアンモナイトの化石。

す。2024年の巡検では、人間の胸幅より大きなアンモナイトの採集に成功。「その瞬間、おおっ！と歓声が上がり、皆大興奮でした」と新井さんは振り返ります。

もう一つの大きなイベントが、世田谷祭への出展です。自分たちが採集した化石や鉱物を標本として展示、解説するなど、活動報告を行います。2024年の世田谷祭では、蝦夷層群で採集した化石を目玉として展示し、絶滅した



2025年の世田谷祭の様子。前年の学生部長賞受賞に続き、栄えある学長賞を受賞しました！



古生物をより深く知ってもらうため、ミニ博物館のような空間づくりを目指しました。展示に加えて、産地から運んだ砂の中から化石を見つける「化石探し」ワークショップも開催。見つけた化石は参加者にプレゼントされ、とても好評だったそうです。こうした工夫が評価され、優れた企画・展示を行った団体に贈られる学生部長賞を受賞。「博物館のような空間をテーマにした自分たちの展示が評価され、とても嬉しかったです」と新井さんは笑顔を見せます。同好会の進化はとどまるどころを知らず、2025年度第96回世田谷祭では、荣誉ある学長賞に輝きました。

最後に3人に今後の「夢」を聞くと……「博物館の学芸員を目指しています。知る喜びを伝えられる人になりたいです」（新井さん）。「自分の手で大きなアンモナイトを採集したい！

先輩方やメンバーを、あっと驚かせてみたいですね。それを世田谷祭で展示できれば、学生時代の大きな思い出になりそう」（井上さん）。「鉱物に関わる物質や材料の研究者になりたい。そのうえで、趣味として巡検を続けられたら最高です」（福島さん）。古生物好きの仲間が集まり、互いに刺激し合いながら、充実したキャンパスライフを送っている古生物同好会。今後も学びと巡検を積み重ね、それぞれの夢が実現することを期待しています！



北里、東京、早稲田大学など、関東を拠点とした生物系サークルが参加する、首都圏生物交流会の様子。成城大学にて合同展示を行いました。